

市指定史跡

黒石川窯跡

石垣市指定史跡 黒石川窯跡の概要

黒石川窯跡は、1981（昭和56）年、県営宮良川土地改良事業所による圃場整備の際に発見され、1988（昭和63）年から発掘調査が実施されました。

調査では、ほぼ同じ場所で、改築を重ねたと考えられる6基の窯跡のほか、窯跡を囲む石牆（せきしょう：石を積んで作った囲い）、物原（ものはら：焼物窯跡付近にある、焼物の未成品や破損品、窯道具などの捨て場）、粘土を採掘したと考えられる穴などがみついています。また、物原を中心に、瓦類を始め、壺・甕・鉢・徳利・急須等の陶器類、窯道具などが出土しています。

黒石川窯跡は、八重山と首里王府との往復文書である「参遣状（まいりつかわしじょう・さんけんじょう）」に、1730年に黒石川というところに窯跡を移したことが記されています。操業期間は、発掘調査によっても明らかとなりませんが、それでも、八重山諸島の窯業史を考えるうえで重要であり、かつ、沖縄県内においても、文献記録に残る窯跡が、これほど保存状態よく発掘された例がないことなどから、2012（平成24）年8月3日に、石垣市指定史跡となりました。



黒石川窯跡発掘調査報告書より（左から石牆と登り窯、物原のようす）



黒石川窯跡を見学なさる皆さまへ

黒石川窯跡は、現在、埋め戻したままの状態になっており、内部を見学することはできません。

また、周囲には、雑草が生い茂っているため、遺跡の場所を確認することしかできませんが、どうかご了承ください。



黒石川窯跡発掘調査報告書より（登り窯近景）